

社会科(歴史的分野)学習指導案

日時 平成28年10月28日(金)5時間目
学級 1年A組 21名(男10名 女11名)
場所 1年A組教室(本館3階)
授業者 永田寛之

1 単元名 歴史的分野 第3章 中世の日本 2 東アジア世界との関わりと社会の変動

2 指導について

(1) 単元について

大単元では、12世紀ごろから16世紀までの日本とアジアの歴史を扱う。前半では、権力の中心が天皇や貴族から武士に変化したこと、後半では、東アジアとの関わりの中で武士とともに民衆の自立と成長がみられたことを学習する。政治・外交面と社会・文化面を中心とする大きく二つの観点で構成されているため、中世の歴史の特色をとらえやすくなっている。

政治・外交面では、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動を通して、武家政治の特色を考えさせる。武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、武家政権と東アジアとの密接な関わりがあったことを理解させる。

社会・文化面では、農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

律令という法に基づいた朝廷や貴族による支配体制は、支配される側であった武士の成長により上下関係が成り立たなくなる。法に支えられた強大な権威が弱くなることで、生活を守るために武力が欠かせなくなり、その後の政治権力が武士に移行していくことをつかませる。また、海外との交流が活発になったことも重なり、武士や民衆の活力が生み出した諸産業や文化が、その当時だけでなく現在の我々の生活に影響を与えていることをつかませる。

(2) 生徒の実態について

4月のCRTの結果から、全体的に思考・判断・表現に関する問題の正答率が全国平均の64.1%に比べて60.9%と低いこと、社会科に対する学習意欲が全国平均の70.2%に比べて69.7%とやや低いことがわかった。これを受けて社会的事象を多面的・多角的に考察する場の充実を図ることと、イメージをもたせやすい資料による意欲化を図ってきた。

本単元を学ぶに当たって、小学校での既習内容がどこまで定着しているのかを確認するために小テストを実施した。その結果、現代の和風建築の基本となった東山文化の正答率が71%と最も高く、源氏と平氏に関わる問題の正答率が21%と極端に低かった。また、資料を時系列に並べかえる

問題を完答した生徒はわずか2名だった。

このことから現代の生活と直接の関わりが薄い内容の理解が弱いこと、学んだ内容を関連付けて理解できていない生徒が多いことがわかった。

現代の生活との関わりが薄い内容の定着を図るために、実物の写真や絵巻など、当時を生きた人々の立場を想像して考えることのできる資料を提示する。また、仲間の見方や考え方を大切にしながら聞き、共通点や相違点をとらえ、主体的に考察する場を設定することで思考力・判断力・表現力を高めたいと考える。

3 研究主題 研究内容との関わり

研究主題

「自らの考えを伝え合い、主体的に課題追究をする生徒の育成」
～指導改善サイクルを生かした授業づくりを通して～

単元の見通しと単位時間の付けたい力の明確化

単元を貫く課題「天皇や貴族ではなく武士による政権が続いたのはなぜか。」を毎時間示す。全単位時間において単元全体との関わりをもたせることで、実力をたくわえた武士が政治権力の中心となったことをつかませて、さらに、経済力を高めて権利意識の芽生えた民衆とともに時代の担い手になったことをつかませたい。

伝え合い活動を核とした指導の工夫

本時の導入にはモンゴル帝国拡大の様子を表した地図を用意する。モンゴル帝国の勢力が拡大し、日本のすぐそばにまで迫っていることを印象付ける。元の侵攻を防いだことに疑問をもたせ、本時の課題を設定する。

課題について多面的、多角的に考察するために、元寇にかかわる立場を変えた資料「元の弱点」「幕府の秘策」「頑張る御家人」を用意する。どの立場から考えるのかを生徒は興味・関心をもった内容から選択する。自分の考えをもった後、3人程度の小集団による交流を行う。仲間の気づきや新たな視点に触れることで自分の考えに自信をもたせたいと考える。

全体交流では、自分の意見との共通点や相違点を明らかにしながら伝え合い活動を行う。さらに、深めの発問「幕府はどうして海の上の戦いにもち込んだのかな。」によって、それぞれの立場から明らかになった理由には関連があることに気付かせ、侵略されなかったのは複合的な条件が重なったことが理由だと理解させる。また、強大な元の侵略を防いだ幕府と御家人のその後の主従関係がどうなるのか含みをもたせて次時につなげたい。

学ぶ環境づくり

社会科の学習の基礎となる重要語句の知識を、一分前学習や小テストで繰り返し確認することで定着を図っている。

また、仲間を大切にすることを学級の約束にし、分からないことを素直に聞くことのできる学級づくり、疑問や課題を仲間とともに解決しようとする集団づくりに取り組んでいる。

4 単元構造図 「中世の日本」 (全15時間)

【本単元に関連する事柄を学習した場面】

小学校6年生 「武士の世の中へ」 「今に伝わる室町文化」

【単元の入り口の意識】

貴族は優雅な生活を営んでいたようだが、土地制度など律令制が崩壊していたし、民衆の暮らしも楽ではなかったようだ。武士が政治の中心になる理由はこのあたりにあるのではないだろうか。

【単元のねらい】 朝廷や貴族など既存の権威よりも、武力など実力がものをいう時代となった。強大な権威が弱くなることは人々の自立と権利意識の成長を促し、日本各地で武力などにより、実力を蓄えるものが現れるようになった。自分たちの生活を守るために武士の武力が欠かせなくなったことをつかませる。

武士の台頭と鎌倉幕府

第1時 中世の流れ

中世のそれまでの時代との違いはなんだろう。

既習内容を交流して新たな時代への興味を高めることができる。【関心意欲】 それまで活躍していた天皇や貴族の権威が弱まり、源頼朝など武士が多く登場してくることがわかった。

第2時 武士の成長

武士はどのようにして力をつけていったのだろうか。

武士の成長は武力にあることをつかみ、事実等から武士そのものに興味をもたせることができる。【関心意欲】 貴族が警護や地方の支配のために武士を活用した。それによって武士が力を付けていったことがわかった。

【単元を貫く課題】 天皇や貴族ではなく武士による政権が続いたのはなぜか。

第4時 鎌倉幕府の成立

どうして平氏は短期間で滅んだのだろう。

短期間で滅んだ理由をつかませ、その後の武士による政治がどのようなものになるのか興味をもたせることができる。【関心意欲】 平氏は、貴族と同じ方法で権力を振るって武士の反感を買ったのだな。頼朝は、どんな政治をしたのだろうか。

第3時 武士の政権の成立

平清盛はどのようにして政治の実権を握ったのだろうか。

院政から保元の乱など、平清盛が権力を握った経緯を理解することができる。【知識理解】 白河上皇が院政を行う中、様々な騒乱で武士の力が必要となった。その中で平清盛が勝ち残り、政治面、経済面でも大きな力をもつようになったことがわかった。

第5時 執権政治

承久の乱後多くの御家人が幕府についたのはなぜだろう。

政治機構と主従関係など封建制に基づく実益を読み取ることができる。

【資料活用】

上皇や貴族の権威より幕府の御恩と奉公のほうが御家人にとって利益があるから幕府についたことがわかった。

第6時 武士と民衆の生活

鎌倉時代の人々はどのような暮らしをしていたのか。

絵巻物などの資料から当時の人々の生活の様子をつむことができる。【資料活用】

武士は武芸に励み、農業もしていた。民衆は二毛作や市の開催などで経済力を高め、団結して地頭を訴えるほど力をつけたことがわかった。

第7時 鎌倉時代の文化と宗教

鎌倉時代の文化にはどのような特色があるのだろうか。

武士の気風に合い民衆も担い手の文化だったことがわかる。【資料活用】 貴族文化を基礎として、武士の気風にあわせた文化だといえる。わかりやすく、民衆にも広まったのだな。

第9時 鎌倉幕府の滅亡

なぜ御家人たちは鎌倉幕府を滅ぼしたのだろうか。

分割相続や新たな御恩が提供できない状況など、主従関係が成立しなくなったことが原因であることがわかる。【思考判断表現】 がんばっても十分な恩賞が与えられず、御恩と奉公の関係が成立しなくなったことが原因と分かった。

第8時 モンゴルの襲来(本時)

日本が侵略されなかったのはどうしてだろう。

元と鎌倉幕府、御家人それぞれの立場から考え交流することを通して、日本が元へ侵略されなかった理由を表現することができる。【思考判断表現】 集団戦法に苦勞したが、元の内部事情や石塁の設置、御家人の活躍で追い返すことができた。幕府と御家人の結束は高まったと思う。

東アジア世界との関わりと社会の変動

第10時 南北朝の動乱と室町幕府

鎌倉幕府と比較して室町幕府の政治の特徴をおさえよう。

建武の新政を経たこともあり、御家人の権限が強い体制であることを理解することができる。【知識理解】 管領や守護大名になるなど、御家人の権限が強い体制だ。幕府は鎌倉府を設置して関東を管理し、貿易で経済力を高めるなどして御家人より優位に立とうとしたことがわかった。

第11時 東アジアとの交流

室町時代の外国との交流関係をまとめよう。

明・朝鮮・琉球・アイヌとの交流内容や工夫を理解することができる。【知識理解】 勘合などを活用して貿易を活発に行い、経済力を高めようとしたのだな。綿花や陶磁器・銅銭の輸入で日本の商売が活発になったことがわかった。

第12時 産業の発達と民衆の生活

室町時代の産業発達は、民衆の生活をどのような変化させたのだろうか。

農村の生産力の向上で商工業者の動きが発達になり、自治組織をつくり団結、一揆という形で権威に抵抗するなど民衆の地位向上の様子をつかむことができる。【資料活用】 御家人が守護大名に成長しただけでなく、民衆も自立してきた。経済力がそれを支えたことがわかった。

第15時 中世のまとめ

中世のそれまでの時代との違いはなんだろう。

院政から鎌倉、室町幕府と移り変わった中世を摂関政治までの日本と比較して意見を交流して、意欲的に学習内容を振りかえることができる。【関心意欲】 律令制が崩れ、実力で生活を守ることで武士が政治の中心になった。権威よりも生活のための土地や実力重視の時代になり、民衆も生活を守るために実力をつけてきたことがわかった。

第14時 応仁の乱と戦国大名

応仁の乱によって社会はどのように変化していったのだろうか。

下克上の風潮が広まってきたことが、社会にどのような変化を与えたのかを考えることができる。【思考判断表現】 戦国時代になって実力がものをいう時代になった。自分の土地は自分で守り、大名の下に地方都市が発展してきたことがわかった。

第13時 室町文化とその広がり

室町時代の文化はどのような特色を持っていたのだろうか。

公家の文化に武士の気風を融合、海外との交流から得た技術も活用して現在にも通じる文化の形成であることがわかる。【資料活用】 武家の力強さに加えて、水墨画や石庭など日本独自の美もあり、障子やふすまなど現在の様式に近いものが生まれたことがわかった。

【単元出口の意識】

生活の基盤となる土地を資本とした封建制に移ると、権威よりも土地を守り奪う力として社会が武士を必要としたのだ。その中で民衆も生活を守るために実力をつけて自立し、海外との交流も加わり新たな産業の成長や貨幣経済が広まりを見せた。日本各地で実力をたくわえるものが増えたことで権力が分立する戦国時代に入っていき、今後日本はどのようにまとまっていくのだろうか。

5 本時のねらい 日本が強国元に侵略されなかった理由を、元と鎌倉幕府、御家人の立場から考え、それぞれの立場から明らかになった理由を関連付けて表現することができる。【思考・判断・表現】

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	自らの考えを伝え合う手立て	主体的に課題追究をする手立て
つかむ	1 モンゴル帝国の強大さから、襲来を退けることの難しさを想像することができる。	1 資料提示と予想【地図 モンゴル帝国の拡大より】 ・モンゴル帝国は強大で勢いもある。そのうち日本も征服されるのではないか。 ・強大な元に日本は侵略されていない。どうして侵略されなかったのだろう。 日本が侵略されなかったのはどうしてだろう。	・モンゴル帝国の勢力が拡大することを示す視覚的な資料を準備し、意欲付けを図る。 ・モンゴル帝国の中国部が元という国名に変わったことを伝える。	・1分前学習で前時既習した重要語句を確認する。 ・強大な軍力をもつ元が2度も日本を侵略できなかった事実から疑問をもたせ課題につなぐ。
考えを持つ	2 「元の弱点、幕府の秘策、頑張る御家人」、資料をもとにそれぞれの立場から理由を考えることができる。	2 課題追究 (1)個人追究資料「元の弱点」「幕府の秘策」「頑張る御家人」から追究資料を興味・関心に基づき選択し、個人追究をする。 (2)少人数グループ交流 選択した資料別に3人程度のグループに分かれ、個人追究した内容を交流する。 ・戦術、征服地、兵士の人数と出身国…機動力・てつはう・兵士の実情(元の弱点) ・防衛設備の設置場所、戦術…石塁による上陸の防止・水軍による攻撃(幕府の秘策) ・侵略の光景、恩賞、分割相続…家族を守る・生活の向上(頑張る御家人) 3 全体で追究 (1)全体交流 グループから一人が追究内容を発表して、発表内容をもとに交流を進める。	・資料をもとに個人で追究した考えを少人数グループで交流し、様々な気付きや視点に触れることで、全体交流での自らの考えに自信をもたせる。 ・交流では根拠を明らかにするために資料を指さし、交流させる。 ・資料別に考えた理由を、板書資料を示しながら発表することで根拠を明確にした意見交流ができるようにする。	・資料は生徒個々の興味・関心から選択させ、主体的に課題追究ができるようにする。 ・元の弱点、幕府の具体的な戦略、御家人の戦わざるを得ない状況に視点をもたせ、侵略されなかった理由を追究させる。
広げ 深める	3 資料をもとに追究した内容を交流して、侵略されなかった理由を複合的に考えることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「元の弱点」 ・馬を使う陸上の集団戦法は得意だ。逆に船を使った戦いは慣れていないと思う。 ・征服された高麗や南宋の兵は戦意が低そうだ。</p> <p>「幕府の秘策」 ・元軍が上陸できないように石塁をつくった。 ・上陸前に勝負するために船で攻撃したのではないか。</p> <p>「頑張る御家人」 ・対馬の状況を見て自分の家族を守るために必死に戦ったのだろう。 ・分割相続で生活が苦しくなり、恩賞目的で戦ったのではないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <p>・元は陸上の集団戦法が得意なのを知って、上陸させない作戦を立て、元が苦手な海上で勝負した。 ・高麗や南宋の兵と違って、御家人は一生懸命に戦う理由が明かだ。 ・生活が苦しくなっている</p> </div>	・深めの発問「幕府はどうして海の上の戦いにもち込んだのかな。」により、立場別の意見を関連付けた交流を行う。	・深めの発問によって、それぞれの立場から明らかになった理由には関連があることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】 資料をもとに、元と鎌倉幕府、御家人の立場から考え、それぞれの理由を関連付けて表現することができる。 【思考・判断・表現】</p> </div>
まとめる	4 キーワードを使って本時の振り返りをまとめることができる。	4 まとめ 本時のまとめを書き、本時を振り返る。 ・幕府は元に集団戦法をさせないために、石塁をつくって水軍で攻撃した。御家人の生活が苦しくなっていることを知り、恩賞を約束して戦う気持ちを高めたのだな。御家人が家族と生活を守るのに一生懸命なのに対して、元軍は戦意が低かったようだ。多くの理由が重なり強大な元の侵略を防げたことがわかった。幕府・御家人の結末は一段と強くなりそうだ。		・課題に対する自分の考えを「集団戦法」「石塁」「恩賞」「戦意」のキーワードを用いて自分の言葉でまとめる。